



支部だより

No. 160

日本山岳会京都・滋賀支部

2025年9月15日

活動報告

2025 安全登山講習山行

第 11 回安全登山講習山行 (クライミング講習)

岩田萌恵

【講習内容】

北小松の岩場の予定であったが、雨天のため比良げんき村の人工登攀壁になった。人工登攀壁はトップロープで傾斜は付けずに練習をした。朝 9 時に集合し、16 時半に練習を終了した。午前中は各自課題を登り、午後からはビレイ練習も行った。

【成果/所感】

約 8 年ぶりに人工登攀壁を訪れ、まずホールドが新しくなっていることに驚いた。久しぶりに見る 15m の人工壁に高校生時代の苦い思い出が思い起こされ登ってもないのに若干疲れてきたが気合を入れて登る。

〈ロープセットについて〉

まずはロープセットを行う。階段で登攀壁の上部に移動し、必ず天井からぶら下がっているロープを使って落ちないように確保し、慎重にロープを取り付ける。これが中々恐ろしい。横で講師の須藤さんが慣れた手つきですが、まず手すりを乗り越えてロープセットの足場に乗る時点で怖い。須藤さんの手順を見て真似しようにも、セットが早すぎて覚えられない。困っている所、村上さんと土井さんに助けていただく。

ロープのセット時は、一方の端を、トップのカラビナが互い違いになるよう通した後、ロープの両端をくくり、下に大きな声で「ロープダウン!」と置いて放り投げる。下でロープを受けってもらい、結んだ両端を解けばロープセットは完了である。

〈グレードについて〉

北小松の人口壁は YDS (ヨセミテ・デシマル・システム) のグレード区分を採用している。垂直壁の場合 5.8~12a までグレードがある。YDS は登山形態を 6 クラスに分類している。街歩きや軽いハイキングがクラス 1、低山・野山はクラス 2、夏山などの 3000m 近い山はクラス 3,4 に属す。

つまり、YDS においてクライミングは、登山のクラス 5 に属し、クラス 5 内でも難易度が細分化され設定されているということだ。YDS のグレードは、5.10(ファイブテン)から、更に数字内で a~d にグレードが分かれる。読み方は、小数点以下のみを 10a (テン a)、10b (テン b)、10c (テン c)、10d (テン d) というふうに読む。10d の次は 11a (イレブン a) となる。

現在、世界最高グレードは 5.15d となっており、あまりにも遠い世界で想像すらできない。滋賀県出身で、日本屈指、世界屈指のクライマーである奥村優さん(23 歳)は現在 15b が最高グレードらしく、いずれ登るのだろうと思う。

〈いざ登り〉

いつも練習している激辛クライミングジム KO-WALL では 10a にボコボコにされているが、今回 11 台まで登る事ができた。10c までは難なく登れたが、11 になると難しい。11 では登っている自分自身も大変だが、テンションを何度もしてもらいながら登るので、ビレイをしている方

も大変である。三木さん、須藤さん、ありがとうございました。

たくさん登れば強くなると思っていたが、須藤さんより「あんた作戦がなってないわ」とご指摘いただく。「簡単な課題を1~2本登ってウォーミングアップして、十分な休息を取ってから、ここ一番という目当ての課題をのぼるんや」と助言をもらった。たくさん登って腕がパンプした状態で登るのも体力向上するので大事ではあるが、技術の向上もしなければならないとのこと。他にも今回須藤さんより学んだことを以下にまとめる。

- ・足に体重をしっかりと預ける意識を強化する、足で登る。
- ・腕をできるだけ伸ばした状態で保つよう心掛ける。
- ・ホールドも持ち方を工夫する。カチを持つ場合は親指を人差し指中指の上にしっかりとのせる。親指・小・指の使い方での保持力が変化する。

後日 KO-WALL でそのように登ってみると、落としかった10aの課題が2本も登る事ができて、うち1本はオンサイトだった。嬉しかった。

〈感想〉

久しぶりに北小松で登って、高校生時代の練習の思い出がよみがえってきた。過去の自分に負けぬよう、精一杯登れたと思う。今回も須藤さんはやはり強かった。いつものように私の長いクライミングに長いビレイをして下さるので感謝しかない。また、何度も何度もトライしている中で、周りの皆さんが温かい言葉をかけて下さることもありがたい。頑張ろうと思える。村上さんが、私が何度も落ちては同じ課題に取り組んでいる姿を見て「須藤さん、えらい弟子ができたなあ」と言っていたのが個人的に嬉しかった。須藤さんに「弟子としてこれからも頑張ります」と言うと、にこやかに「一年以内に私

を超えないとダメですね!」と返ってきた。頑張ります。

いつも温かく励ましてくださったり、的確な助言をくださったりする須藤さんだが、今回一番印象に残った言葉は、「あんた納豆よりもネバネバやな」です。

実施日：2025年5月6日（火）

場 所：比良げんき村 人工登攀壁

講習名：クライミング講習

参加者：須藤邦裕(L)、村上正、三木千津子、土井文雄、藤綱珠代、栗野雅巳、池之内直樹、岩田萌恵、

第12回安全登山講習山行 (クライミング講習)

雨天のため金毘羅山の予定を変更してカメロックスで室内講習

岡崎弾

昨日までの梅雨晴れの暑さを忘れるような、雨が降り頻る一日でした。街では薄枯れた紫陽花もちらほらと見かけるようになり、風が心地いい季節になりましたね。室内での練習ということもあり、半袖のクライミングシャツでも快適に体を動かせました。練習では、須藤さんをはじめ、皆さんの登り方をよく学びながら一生懸命に取り組むことができましたと思います。皆さんからたくさんのお褒めの言葉をいただきました。「普通の下手くそ」から「ちょっと上手い下手くそ」になれたような、そんな気がします…(笑)。岩田さんから鍛えてもらいました。ありがとう。

須藤さんからのアドバイスにもありましたが、腕力に頼って脚の使い方がよく分かっていなかったので、今後はそこを意識しながら普段も練

第 13 回安全登山講習山行 (クライミング講習)

中塚智子

習したいです。いつも山岳会の練習に参加させていただいて感じるのですが、家庭やお仕事、その他諸々のことで忙しいなか、情熱をもって練習に取り組まれている皆さんは本当に素晴らしいと思います。山の世界はお金の問題もそうですし、体力と気力がなければ、いくら気持ちがあったとしても登ることは難しいと思います。物理的な「山」以上に人間関係やお金、あるいは精神的な「ヤマ」の登攀の方が困難だな、と感じることもしばしば…。敢えて哲学者（いつも須藤さんから揶揄われるので）の言葉を借りると、「険しい道がなければ、山は聳えることはできない」（デカルト、方法序説）と。すこし話が逸れましたが、皆さんを尊敬しています。これからもご指導のほど宜しくお願い致します。



実施日：2025年6月14日(土)

場 所：カメロックス（亀岡市交流会館内）

目 的：ボルダリングのスキルアップ、
L&TR練習

参加者：須藤邦裕（L）、村上正、三木千津子、藤綱珠代、松下征悟、池之内直樹、岩田萌恵、岡崎弾

朝から猛暑・怪しい天気で、人口壁での講習会には有難いが、暑さには変わりありません。

9時に集合して今日の講習の説明が。各々練習と、安全講習として懸垂下降を行う、とありました。ロープを3本張って、懸垂下降の場所も確認して各自壁にトライします。

トップロープとはいえ自分の汗なのか、湿度なのか、滑るのでチョークをこまめにつけます。登りながら止まってしまうと、下からアドバイスやら叱咤激励(?)で進んでいきます。

遅刻してきた岩田さんは恐縮しつつも、かけつけ3本。(若いなあ～、は、私の感想です)。その後も、11にトライ!?

須藤リーダーの、静かに丁寧に登る姿は、いつでも刺激をもらいます。

暑さが増してきて、11時頃に藤綱珠代さんからの差し入れの大きな冷えた黄色いスイカをいただきました。美味しかったーです。そのまま昼食へ。

午後は、外壁で懸垂下降の練習です。ベテランでも事故のある懸垂下降。バックアップの取り方、ロープに負担をかけない降り方などなど。

デモンストレーションとして、須藤さんが、空中懸垂下降しました。

残り時間は、再び壁にトライします。

3時過ぎ、黒い雲が近づいてきたので片づけ始めると、みるみる豪雨になり、駐車場までのグラウンドも水浸し。帰路は雷とたたきつけるような雨となりました。

今回も有意義な講習会ありがとうございました。

実施日：2025年7月16日(水)

場 所：比良げんき村 人口壁

参加者：須藤邦裕（L）、三木千津子、土井文雄、藤綱珠代、矢野達子、岩田萌恵、中塚智子

陀羅佛小屋

栗野雅巳



げんき村の人工壁



実技講習を熱心に学ぶ

週末の陀羅佛小屋最後の宿泊は安曇野をしっかりと楽しんできました。

5/31(土)はいつも寄るわっぱら屋で、ざる蕎麦を楽しんだ。しかし天麩羅を頼んだが揚げたてでなく冷えていてちょっと残念と思ったが美味しく頂いた。店を出て暫くすると雨となる。予定を変更して大町山岳博物館を見学する。

柳さん館長以来の見学だが改築されて大変良くなっていた。

その後、買い出しをして小屋に向かい荷物を置いて風呂に行く「ゆーぶる木崎湖」だ。併設している山道具のお店カイラスが閉店作業をしていた。夕食は土鍋で肉鍋を楽しく美味しくいただいた。夜間に雨は止んだようだ。

水無月となった今日は早朝に小屋を出て哲学の森を散策し、鮮やかな新緑の美しさを堪能した。樹齢300年以上と云われる幹周り5.2mのブナ太郎へ挨拶に行く。

小屋に戻り掃除戸締まりをして、さてどこ行こうとなり、安曇野山岳美術館へ行く、ここは一等の大当たりであった。知人や松田画伯の作品、大好きな作家さんの作品ばかりが展示されている。カフェもあるが、受付嬢にお勧めの蕎麦屋さんを紹介してもらいアルプスの展望が楽しめそうな池田町の高台にある翁さんのお店で田舎そば(黒蕎麦)をいただく。

次はお蕎麦店の方に美味しいコーヒーの店(ラトリエ デサンス)を教えてもらいコーヒーとガトーショコラ パンケーキを美味しくいただいて安曇野をあとにしてみました

帰路の名神高速道路 京都東インター付近で事故があり、京都組は草津から下道で渋滞に巻き込まれながらも無事に到着した。

実施日：2025年5月31日(土)～6月1日(日)
参加者：松下征文(L)、駒井治雄、上野陽子、
栗野雅巳

京都・滋賀の東西南北端を歩く

～京都南端と東端～

前川朋子

新企画である大槻さんの「京都・滋賀の東西南北端を歩く」第1回目に参加した。まず、京都府の南端に向かった。携帯の位置情報で確認した南端とされる場所に立ったが何の標識もない。県境というものはこんなにも人々に認識されることがないのだという事実には驚いた。(写真1)そこから1時間弱歩いて、三角点216m(点名)梅谷を目指した。ゆるやかな道をおしゃべりしながら歩いた。曇り空で湿度は高めだが暑くはなく歩きやすかった。ほんのそこまでというので水筒を持たずに出かけたら、大槻さんにのどが渇く前に水分補給するようアドバイスされ、お茶を分けていただいた。他にも、下りではストックを10cm伸ばすこと、常に地図を確認しながら歩くこととアドバイスを受けた。

また、三角点というものが何であるのか、なぜ支部活動の他に大槻さんが一等三角点研究会長として活動されているのかも話して下さった。(写真2)

道の駅「みなみやましろ村」でお昼休憩後、今度は京都府東端を目指した。ここは、京都・滋賀・三重の三県境界点でもあり、道標が設置されていたが、携帯の位置情報で見ると東端とされる場所から少しずれているようだった。(写真3)3つの都府県境が一点に集まる箇所は、三県境、または、三国境と呼ばれ、全国に48か所もあるそうだ。

東端までの軽い山歩きの後、再び道の駅に戻り、幣内さんおすすめの抹茶ソフトを食べながら休憩した。濃いお茶の味がとてもおいしかった。

大槻さんから、地図の読み方に関して、真北と磁北のずれがあること、子午線の名称は子(ね)と午(うま)の方角が由来であること、そして、山行前に地図を見て行程をイメージ→地図を確認しながら歩き→山行後に見直しするという3回チェックが大切だと教わった。

また、今回の山行ではじめてご一緒させていただいた大先輩たちが、とても楽しそうに山歩きされている姿を見て、わたしもいくつになっても山歩きできる体を維持していきたいと思った。あの山は〇〇山、あの花は〇〇、など知識も豊富、経験も豊富なJACの先輩方にいろいろと教わる事ができるのはとてもありがたい。これからもできるだけJACの山行に参加したいと思う。

丁寧にご指導いただき、本当にありがとうございました。長距離の運転をしてくださった寺嶋さんにも感謝しています。

実施日：2025年6月1日(日)

参加者：大槻雅弘(L)、幣内規男、伊原哲士、
大倉寛次郎、山崎泉、安東勝浩、安東恵子、
前川朋子、寺嶋哲久(会員外)



(写真1) 京都府南端



(写真2) 梅谷三角点



(写真3) 京都府東端

～京都府北端と西端踏破に臨む～

安東恵子

6月1日に京都府東南端を探索して、7月13日(日)、いよいよ北西端を探索すべく、快晴の朝早く主人と私は期待に胸を膨らませ家をあとにしました。集合場所は、地下鉄・太秦天神川駅に7時。15分余裕をもって着いたら、すでに他の4人の人達は、到着していました。行程が長い為揃った時点で、荷物を積み6時55分に出発しました。

7時12分には、京都縦貫道沓掛ICに入り与謝天橋立IC、伊根を経て、経ヶ岬を目指しました。

亀岡にさしかかると、いつもは霧がかかっていることが多いのですが、この日は、すっきりしていて、山肌のはっきりみえました。「あ、今日は、海がよく見えるかも！」と、更に期待が膨らみ、車中での会話も、弾みました。

行程表では、経ヶ岬着 11 時半でしたが、なんと、9時12分には経ヶ岬の駐車場に着。早々とストックと水分の用意をし、最低限の軽い荷物で灯台を目指しました。すでに日は高く昇っていて、暑さはじりじりと感じるほどでした。でも、木陰に入るとスーとしました。海風がサーッと通り抜けていくのを感じながら、整備された階段を上っていきました。高い木々が生い茂る中ふっと見上げると、海の色に負けないくらいの真っ青な空が、頭上に広がっていました。「あ、灯台が近いかも」と思う間もなく、灯台が立つ場所にはいる鉄製の大きな入口が目に入りました。施設の建物を左手に歩いていくと、右手に真っ白な、そう、あの白亜の経ヶ岬灯台が堂々と建っていました。国の重要文化財(国内で5か所のみ)のフレネル式1等連閃光レンズ採用。灯台のレンズとしては、日本最大級の大きさで第1等灯台に指定)であり、127年もの間ずっと絶え間なく日本海を見守り続けている風格が感じとれました。みんなで灯台の傍までいき、ぐるぐる回り建物を観察し、経ヶ岬を背にして全員で記念写真を撮りました。

振り向いて見えた日本海は真っ青で、水平線が遮られることなく、200度近く眼下に広がっていました。その水平線は、かすかにゆったりとした弧を描いていました。その自然の大海原は、私に「地球は丸いんだよ」と教えてくれているようでした。一瞬、波のない穏やかな海とみえますが、岩に打ち付けられる波の高さが50cmほどありました。それを見て、リーダーの大槻さんが、「ここから見ていたら、静かにみえても、あの高さの波は、流れが相当強い証拠ですよ」と、説明してくださいました。

経ヶ岬灯台の上に上がった所に、「磁針偏差四度三十分西」と書いた東西南北を示す石造の碑が

ありました。磁石の示す北が、地球の北より少し左(西に)となっていました。説明を受けたのですが、私には少し難しかったです。しかし、とても興味を持ちました。駐車場に戻ったのは、10時15分、トイレなど済まし、10時25分に次なる目的地、西端に向け出発しました。

国道178号線を久美浜に向かう途中で、山崎さんが、「この道沿いで、標準子午線を通るはずです!」と言ってくれました。「今〇〇度です。」のことばに注意を傾けながら歩くこと45分位。ありました!日本中央標準子午線塔、東経135度、北緯35度39分21秒と明記された石碑と、塔が並んで国道沿いにありました。

子午線塔を後に、更に西端を目指し走りました。日本海の手風や、豪雪に耐えられるよう、車から見える家屋の壁はほぼ板を横張りにした風情ある景色が続きました。国道178号の河梨峠近くのトンネルを超え豊岡市に入った近くで駐車しました。ここで昼食としました。

昼食後出発は、12時過ぎ。国道に沿って車で来た道を少し戻る感じで歩くと山道にでました。高い木がうっそうと立ち並ぶ比較的平坦な山道を6人が列をなし歩いていきました。川が細くなったところで、右に曲がりいよいよ西端を東経134度51分13秒、北緯35度35分19秒の標高431m西端を目指しました。目指し少し急な登りが始まりました。「両ストックをしっかりとって、グッと上がる」と、リーダーの大槻さんの激が度々飛びました。主人も私も、「みんなにしっかりと付いて行かない」と少し緊張しながらも、慎重に登って行きました。久々の道なき道、険しい山に登る快感も同時に味わい、「来てよかった」と思いました。

ところが、斜面を15分程登った所(標高250m)で、主人の息が少し早くなって、足も重そうでした。皆さんには途中で何度も待って貰って迷惑をかけていました。「ちょっと待ってください。安東さん夫妻は、降りましょう、僕が付いて行きますから。山崎さん、寺嶋さん、前川さんは、西端を目指してください。あとで、合流します。」と大槻

さんが言われました。しばらく相談されながら、「やはり、全員で降りましょう。せっかくここまで来たのだし、ルートを変えて河梨峠行きましょう」と結論を出されました。「全員が無事に下山するというのが、一番大事なこと」と、相談の途中で言われた言葉は、今も私の脳裏にしっかり残っています。

読図を重ね、全員が安全に歩ける道を選びながら(でも私は2度もころび)河梨峠に到着しました。午後1時過ぎと思います。そこで、「今日のおきの食糧!」と言いながら、大槻さんが出してくださったのが、よく冷やしたキュウリでした。その場で塩をまぶしナイフで食べやすくカットしてみんなに振舞ってくださったのです。その美味しかったこと!兵庫県と京都府の境である峠のさわやかな風の中で、体中の疲れが吹っ飛んでいきました。駐車場まで、元気100倍で歩きました。

午後2時5分下山。2時9分には出発準備完了で、全員が車の中でした。そして、出発直前に「もうひとつみんなにご褒美です。」とリーダーの大槻さんが、何重にも保冷バッグで包み保冷剤もしっかり入ったバックから出して下さったのは、ちょうど食べごろになった冷凍バニラヨーグルトでした。体の芯から疲れが取れていくようで、ゆっくりじっくり味わいながら食べました。「ご馳走様でした。」

帰路の出発時間は、2時18分でした。途中サービスエリアでコーヒープレイクタイムを取り、地下鉄太秦天神川駅に到着したのは、午後4時半でした。大いに笑い、語り、学びした貴重な1日となりました。

今回、「京都府東西南北端を歩く」という素敵な企画の最後である西端を踏めなかった責任を感じています。主人も、「このままでは行けない!」と思ったのか、毎日歩き始めました。日本山岳会京都・滋賀支部の皆さんと次回の山行きを心待ちにしています。

実施日：2025年7月13日(日)

参加者：大槻雅弘(L)、山崎泉、前川朋子、
安東勝浩、安東恵子、寺嶋哲久(会員外)



参加者集合

沢登り育成講習

2. ヘク谷

池ノ内直樹

須藤邦裕さんの講習を受けていた3月、講師村上正さんから沢登りの講習を5月にする旨を聞いた。私はクライミングの面白さを知り始め、将来、人を連れて沢登りをしたいと思っていたこともあり手を挙げた。

9時になり準備が整い挨拶と今日の講習の内容が話される

9時40分 入溪

10時10分 8mシャワー

11時13分 岩間6m

12時03分 二条滝12m

13時46分 二段滝15m

14時56分 18m滝

16時20分 トコ状7m

入溪すると、安曇川水系の龍の伝説に思いを巡らせ冷たい水に足を浸ける。ルートの取り方

は、立ち止まり、先が見えなくなる所までのルートを段取るということを学んだ。

8mシャワーで初めての高巻ロープだった。緊張が走る。私は速く登り過ぎてしまった。講師のビレイヤーはザイルの張りで相手の状況を把握するということを学んだ。岩間6mもいつもなら直登出来るはずが、水量が多く、又もや高巻となった。二条滝12m越えた所で昼食休憩。二段滝15mで水量多く高巻。講師から沢登りでは救助へりは降りて来ることが出来ない。なので、いかに安全に且つ、危険を排除することかをリーダーは考えるものだ。と教わった。18m滝長い高巻だった。滑る足元は気が抜けない。いつもの登山道ではない。講師の沢登りは総合技術という言葉通り、私は草を掴み、膝で踏ん張った。トコ状7mで講師はエスケープを決断された。怪我人が出たことと水量が多く、高巻で時間がかかってしまったことからだ。

登山道を目指し、それぞれの人が見事な連携と責任感で下山となった。

この講習は将来の指導者育成が主目的ということで、パーティーの状態の把握を常にし、危険の排除、アクシデントを想定内にする為の準備をすることを学ばせてもらった。

遅くなり心配をお掛けし、駆けつけて頂いた須藤さん、駒井さん、藤綱さんありがとうございました。

実施日：2025年6月22日(日)

参加者：村上正(L)、土井文雄(SL)、藍野裕之、池ノ内直樹、岡崎弾、岩田萌恵、植村公一(L補佐、会員外)

沢登り育成講習

3. 八ツ淵の滝（八池谷）

池ノ内直樹



入渓前の基本説明



小滝を越えて

本来この講習③で行うはずのエスケープのルートを取り方を講習②のヘク谷で行ったので、ロープワークの実践と参加者がトップで登るということと、滝つぼで泳ぎ沢登りを楽しむという内容となり、ヘク谷でなく八池谷と変更となった。

8時30分ガリバー旅行村駐車場に集合した。ヘク谷の経験から安全とルートの取り方に気を付けようと、魚止の滝へ向かう沢から透き通る水へ入渓した。

ルートを探している時、講師から滑る石の見分け方を教わった。大岩の鎖場に着く。この日も水量は多い。落差6mの魚止の滝に着く。八ツ淵の滝の最初の滝で苔が付いた岩がきれいだ。講師が沢は自由である。ルートを好きに取ってよいのだということを学んだ。滝は、白い泡と涼しい風を身体にすり抜けさせた。高巻することになり、トップが岩田萌恵さんで支点を取りビレイをする濡れたザイルが重そうだった。岩場を登りきると泳がなければならないこととなった。滝が落ち込み水流が出来て流されるのである。海の離岸流のようになることを知った。必死の顔にパーティーが笑顔になる。講師がハーケンの使い方を実践してくれた。私は危険を犯そうとした。後から講師に聞くとこの時が指導者のパーティーの状態の把握をしていなければならない場面とのことだと学べた。八徳の石碑に着く。昼食休憩。大摺鉢で沢登りの楽しさを満喫する。屏風の滝で童心に帰る。小摺鉢でメガネがなくなり、私は私で泳ぎが苦手と判明する。

指導者育成が主目的の3回の講習で低体温症の人にすぐ飲めるテルモスのお湯、怪我人が出たときのザックの空きを1/3作っておく。アクシデントを想定内にする為の準備が実践された講習を体験出来た。パーティーの状態でエスケープを

見極める。助けがない沢は安全で終わるために危険の排除をしていくことだと学びの多い講習だった。次回、柿其谷(カキゾレ)に生かせるようにしたい。

実施日：2025年7月6日

参加者：村上正(L)、土井文雄(SL)、藍野裕之、池ノ内直樹、岩田萌恵



トップを引く講習生を見守る



へつり指導

個人山行

雪彦山地蔵岳大ジェードルルート

松下征悟

2年前の5月、雪彦山地蔵岳東稜を登った時に、地蔵岳の頂上に向かって真っ直ぐ伸びる凹角を登っているパーティーがみえた。帰り道で「大ジェードル」というルートだと知った。ドイツ語なのかフランス語なのか英語なのか、どこの国の言葉なのかも分からないが、とにかくこのカッコいい響きに、登りたいという気持ちが一気に高まった。地蔵岳は、古くから登られている岩場でたくさんのルートがあるようだが、あまり新しい資料が見つからない。ネットの記録をあさり、ルートの取り付きやグレード、必要なギアといった情報を集め、いつか必ず登ろうと思っていた。

4月になり、ゴールデンウィークの天気が気になりはじめる。遠くまで遠征したいが、仕事と家庭の予定で連続して山に行ける日が作りにくい。それでもせっかくのゴールデンウィークなのでマルチに登りたい。天気予報との睨めっこの日々が続いた。

5月2日、奈良はしっかり雨が降っている。西から回復するという天気予報を期待して姫路城のライブカメラを朝から何度も開いた。午後になりライブカメラ越しに青空が見えてきた。これなら行ける！と思い「明日、雪彦山行きましょう！」と三木さんに連絡した。偶然にも2年前の地蔵岳と同じ5月3日。今回は、東稜ノーマルルートの取り付きから2ピッチ登り、そこから滑り台にトラバースし大ジェードルを抜けて頂上に出るルートだ。

5月3日、駐車スペースに車を止め、取り付きに向かう。早い時間を狙ったので私たち以外他に誰もいない。7時40分、準備を整えクライミングをスタート、日当たり良好、岩はよく乾きフリクションも良い、いい条件で登れそうだ。2ピッチ

登り、三木さんリードで滑り台に向けてトラバースする。ここからは2人とも行ったことのないルート。緊張感とともに集中力が高まる。

滑り台の取り付きでルートを確認、中央のフェイスと右側のカンテのルートで悩んだが、今日の目標は大ジェードル。力を温存するためにも右側カンテを選び松下リードで滑り台に取り付く。高度感があって気持ちのいいルートだった。滑り台から踏み跡を辿って少し登るとノーマルルートに合流、馬の背取り付きの広いテラスまで進み小休止し装備を整える。ここから踏み跡を辿って少し下り、リッジ状の岩稜を登ると大ジェードルの取り付きのテラスだ。

さあいよいよ大ジェードル、高度感が一気に増し、気持ちも高まる。大ジェードルはしっかりしたボルトが整備されていたので高度感を楽しみながら落ち着いて登ることができた。そして最終ピッチ、錆びたハーケン、錆びたリングボルト、ランナウトに緊張しつつ12時25分頂上にトップアウト。高度感ある壁を登りきって頂上に立つ爽快感と達成感はたまらない。三木さんと頂上でゆっくり余韻に浸った後、駐車スペースに戻った。

地蔵岳の右カンテルート、不行岳の温故知新にも挑戦したい。

実施日：2025年5月3日(土)

参加者：松下征悟、三木千津子



ピッチをきぎむ



クライミングを終えて

沖島清掃登山

野村綾子

今年11月に五支部合同山行を沖島で行います。その下見を兼ねて沖島登山道整備に参加しました。五支部合同山行の準備に尽力いただいている竹下さんから沖島清掃活動の情報があり、5月29日(木)には京滋支部から数名参加されています。

今日はその2回目で9名参加しました。この活動は沖島育ちで遊漁船をしておられる中島さんと沖島の自然を守りたいと活動を始めた佐々木司さんグループが出会い始まったそうです。

今回の作業内容は登山道脇の枝木をノコギリや選定挟みで除去、道を横切る浮いた細い根っこはつまずきやすいので切らせてもらって、ごみを回収する等が主な作業。前回は道沿いの墓跡に残るごみを沢山片付けられたようなので、ごみは多くはありませんでした。

ケンケン山(見景山)から尾山220m(蓬莱山)へ、その先の蓬莱ヶ岳からは急坂を下り弁財天へ、そこから湖岸沿いに小学校横を通して漁港へ戻るルートで、漁港では予約していた湖島婦貴の会の沖島弁当が待っていました。鯉の甘露煮、小アユの佃煮、小アユの天ぷらなどびわ湖の恵みが詰まっています。

2時間半～3時間ほどの清掃登山でしたが、この日は特に気温が高くて暑さが堪えませんでした。佐々木さんグループと合わせて20名程、初対面ながら楽しく作業を行いました。

話が前後しますが、沖島に渡るには堀切港からおきしま通船で15分ですが、今回は、中島さんの遊漁船に乗せていただき伊崎不動の棹飛びの棹先を湖面から見て、びわ湖らしいえり漁、石材業が盛んだった石英斑岩の採掘跡付近・・・など沖島をぐるりと一周の観光をして漁港につきました。詳しくは五支部合同山行のお楽しみで。

清掃活動は猛暑を避けてまた行われるようです。興味がある方は是非ご参加ください。委員のどなたかに聞けば連絡くださると思います。

実施日：2025年6月30日(月)

参加者：幣内規男、駒井治雄、竹下節子、矢野達子、村上正、松崎宜晃、土井文雄、藤綱珠代、野村綾子



湖面より伊崎寺 護摩堂の飛棹を望む

岳書逍遙

山書会 松下征文

山書とも岳書とも言われるがともに山の本のことだ。山ほど多くの分野で表現されるものは他にないのでは？記録、紀行、俳諧、小説、技術、歴史、科学、医学、案内等々、写真集や絵文集も出版される。それらの本はその数を知らないほどにある。

マロリーがエベレスト遠征を終えてニューヨークの新聞記者の質問に答えた Because it is there は世界中であまりにも有名な言葉となった。山に登る理由としてこれほど適当な言葉はない。自分の様な凡人には不向きな言葉だが、しかし自分は何故登るのだろう。

多くの岳書が答えを求めている様に思える。あなたも岳書逍遙の世界に踏み込んでみませんか。気づかなかった全く新たな山が見えてくるでしょう。

今は文庫本も高価になってきましたが、多くの読んどくべき本が文庫や新書となって読みやすくなりました。仲間と共に山の本の世界を逍遙しましょう。

何から読むかは支部だよりや山仲間の推薦書、書店の山書棚が入り口となる、そこから興味の沸く本が見つかるはずだ。

山の本の案内本もあるがこれも間口が広いので今回はここを逍遙してみたい。

書棚を見回してみるといろいろあるがやはり一番は小林義正「山と書物」「続-山と書物」だろう。内容は膨大な山書の中から選ばれた本である。どれから読んでも次に読むべき本が見つかるだろう。小林義正さんが高齢となって手放すことになり、元京都府山岳連盟会長の小谷隆一氏が全てを引き取ることとなった。小谷氏は自宅敷地内に山書専用の耐火書庫を建てて納められました。その時のことを自著「やまなみ帖」に全ての本の背中が見えるのは素晴らしいと記しています。本の

置き場に困り本棚に二列に置くと何があるか分からなくなる。本好きの悩みであろう。

その後小谷氏は母校の信州大学に寄贈されました。

話がそれましたが、次におすすめは近藤信行さん編集の自由国民社「日本の山の名著」という案内書があり昭和までの本を詳しく解説しています。その他にも多くありますがどれか一、二冊を手元に置くと良いでしょう。

先ほどの小谷隆一さんの山書蒐集は凄まじいのひと言、藤木九三さんの「登臨行」という著書がありますが、それが古書市場に出たときUさんという方が200万円で応札したが落札出来ず275万円で小谷隆一さんが落札したということです。さすがに金に糸目を付けない経済人です。いまでも古書市場に出ることがありますが今は20万円ほどの売値です。

一般流通本以外に特装本や限定本があります。自分も特装限定本に興味があり蒐集していますが1冊5万円以上には手が出ません。

特装本は内容に相応しい作りで、見ているだけでも楽しいものです。紙は楮等の和紙が使われ、表紙も布や版画、蓑虫皮、羊皮等が使われています。そして発行部数は30部から300部の限定書名本となっています。

山書の世界も面白い世界です。京都支部時代の故阿部恒夫さんが日本山書の会で活躍されました。彼らの時代は盛んに特装本や限定本が出版されました。今は全く無いのでは、おそらく私家版も少ないでしょう。

自分は当時の特装本や限定本そして私家版をネットや各地の古書店や古書展で探すのが楽しみとなりました。脇に逸れてしまいましたが山書の森も広く深い山登りのようです。

これからも山書、岳書の世界を逍遥していこうと思っています。興味ある方は一緒に楽しみませんか。

図 書 紹 介

新潮文庫 『氷壁』 著者 井上 靖

昭和38年11月5日発行

平成14年6月20日 84冊改版

発行所 株式会社新潮社

頁数 633 ページ

本体価格 1,000円(税別)

竹下節子

今年7月、河童橋から潤沢までの道を歩いた。7月末締切の支部だよりの題材も決まらぬままにでかけた。

徳澤まできてメンバーの一人が「ここは小説の舞台になった場所ですね」と言った。それを聞いて反射的にでてくるのは「徳澤園」だ。井上靖の『氷壁』の舞台になった場所である。

昔は大抵の先輩はここで足を止めて『切れたナイロンザイル』の話をした。お決まりのように私もそれを何度か小耳に挟んだ。耳で聴いた懐かしい場所でもある。そして山岳小説『氷壁』を私も知ることとなった。

都合よく図書紹介のヒントをもらった。それで未だに話題にあがる井上靖の『氷壁』をここにご紹介することにした。

早速読み返した。再び小説のなかにのめり込む勢いだ。物語が進む方向にぐいぐい引っ張られて行く。

この小説は中心人物の魚津恭太とその親友小坂乙彦が冬の前穂高東壁に向かったことから始まる。2人は初めてのナイロンザイルを使って冬の岩稜地帯に挑んだ。そのあげくザイルは切れて小坂は命を落としてしまった。ザイルは切れたのか切られたのかと社会問題になり謎にされてしまう。

それからの魚津は自責の念に苛まれながらも何故ザイルが切れたかの真相を、身を投じて追求していく。亡くした友には狂おしいほどの苦しみ

を抱きながら自分だけが知る真実に奔走していく。

小説は登山を介在に男同士の友情とその狭間を縫う男女の感情の迷いや葛藤がリアルに頁に映されていく。山岳小説なのか恋愛小説なのか推理小説なのかと不思議なバランスを保ちながら展開されていく。切れたザイルの真相を解明していく過程で様々な人間関係が絡み合う。いらだちを覚えるほどである。

小説の醍醐味は大自然の猛威に晒される魚津と小坂の気迫と大自然の極限の描写だ。遭難が起きる前から起きた瞬間、その後の喪失感と心模様が魚津恭太一人にのしかかる。説破詰まった心理状態は極限で人ごとではないと錯覚する。遭難の現実を受け入れなければならない魚津の心理は読者の自分にもリアルな熱を感じる。その心が移り変わる描写である。遭難が起きたあとの疲労困憊のなか徳澤まで救援を求めて下山していく人間描写は圧巻だ。魚津のいかなる心情も余すことなく伝わってくる。

ナイロンザイル切断事件の謎解きが狂おしいほどの悲しみの中で繰り広げられた。亡き親友の為に最後まで尽した。・・・そして滝谷・・・魚津は最後の結末を自分にあてた。

とても悲しい物語で謎が残る図書です。登場人物は他にもたくさんいます。それらの人物がより重要な位置付けにいます。社会環境に影響力を発揮する者、強引な圧力にも対峙し多大なる救援の手を差し出す人々、悲しいけれどそれらの人々の巧妙な人間業がこの小説を編んでいる。

追記 1956年2月24日から1957年8月22日まで朝日新聞に連載された。



ご 案 内

横山宏太郎(会友)

今年2月に出版された「チベット紀行」という本があります。2015年に北大山岳部OBたちのグループがチベット高原を周回した紀行と、探検・登山史、自然環境などが主な内容です。

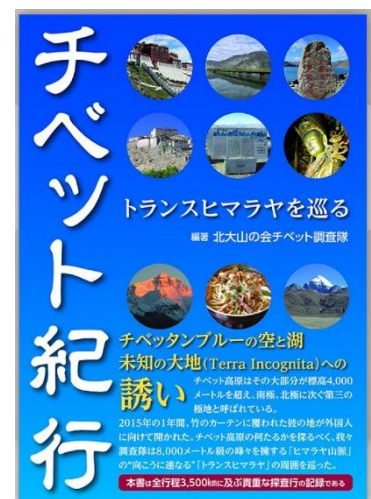
私も縁あってほんの少しですが出版に関わり、著者に加えてもらいました。

著者割引・送料込み3,000円で購入ご希望の方は横山 (peng-y@amy.hi-ho.ne.jp) までご連絡ください。

以下に書評があります。

「山」No.962(2025年7月)

AACK Newsletter No.112



行 事 案 内

◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。

◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。

◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

第25回 5支部（富山、石川、福井、岐阜、京都・滋賀） 合同懇親山行開催のご案内

紅葉の季節に5支部の懇親山行を琵琶湖の沖島で、地元の方の協力を得て開催します。沖島は淡水湖で唯一人が生活をする歴史のある島です。自然環境整備では京都・滋賀支部も地元の方と協力して活動をおこなっている島です。多くの会員の参加をお待ちしています。

日 時：2025年11月9日(日)～10日(月)

山 名：琵琶湖・沖島

宿 泊：休暇村 近江八幡 西館
滋賀県近江八幡市沖島町宮ヶ浜

TEL 0748-32-3138

11月9日(日)

受 付：14：00～

講演会：15：00～17：00

講 師：中島政信氏〈琵琶湖沖島・漁師〉

演 題：「沖島の歴史と観光」

夕食懇親会 18：00～

11月10日(月)

朝 食：7：00～

山 行：沖島内登山

集 合：9：00 堀切港

出 発：9：15 堀切港発

下 山：14：00 沖島漁港発

会 費：¥23,000—（1泊2食。翌日の渡船代と昼食、お茶代含む）※当日、集めます。

申込期限：2025年10月8日(水)

申込先：5支部懇親山行京都・滋賀支部担当

2025年

安全登山講習山行

日 程：9月20日(土)クライミング 金毘羅山

10月19日(日)地図読み

道の無い山を歩く！

11月8日(土)クライミング 金毘羅山

11月28日(金)クライミング 北小松

12月13日(土)クライミング 金毘羅山

集合場所：参加者に連絡いたします。

※ 悪天候時は室内クライミングへの変更あり。

担当・リーダー：須藤邦裕

比良山縦走

日時：2025年10月25(土)～26日(日)

行程：

25日：比良山系最南端、霊仙山を出発、蓬萊山～比良岳～金糞峠にてテント泊

26日：コヤマノ岳～武奈ヶ岳～釣瓶岳～地藏峠、蛇谷ヶ峰～グリーンパークに下山
総距離約35km

山行の目安：一泊テント装備を担いで2日間歩ける体力

参加人数リーダー含め4名

担当・リーダー：土井文雄

北山探訪

大岩山△758.2m (Ⅲ 四ツ谷)

日時：2025年10月4日(土)

集合場所・時間：参加者に連絡

行程：日吉町四ツ谷⇒海老谷集落→鉄塔巡視路→大岩山△758.2m→南尾根下降→海老谷集落→日吉町四ツ谷

地形図：国土地理院2.5万図「四ツ谷」

山行の目安：《体力：3、技術：3》

{注} 少し藪漕ぎあるかも

担当者・リーダー：田中昌二郎

スケッチ山行

三上山を描こう！

日時：2025年10月5日(日)

担当：駒井治雄

近江富士と呼ばれる円錐形の綺麗な三上山を野洲川河川敷から写生します。

松田会員に指導してもらいながら個性豊かな作品を描きたいと思います。

北山荘観月会

旧京都一中から受継がれてきた北山荘に一泊して

日時：2025年10月11日(土)～12日(日)

集合場所・時間：参加者に連絡

行程：

11日：雲ヶ畑中津川町⇒中津川林道⇒松尾谷分岐に駐車→同林道→小豆坂→今西錦司先生レリーフ→北山荘

12日：小屋→柳谷峠→魚谷山△816.2m (三等三角点 点名柳谷) →魚谷峠→林道→松尾谷駐車地

地形図：国土地理院2.5万図「大原」「周山」

山行の目安：《体力：3、技術：3》

装備：夕食と朝食、好みの飲み物、肴、寝袋又はシュラフカバー等、バーナーなど

担当者・リーダー：田中昌二郎

今西錦司レリーフの集い

日時：2025年11月1日(土)

担当：駒井治雄

北山直谷に有る今西錦司レリーフを訪ね

清掃、修繕作業、整備を行います。その後、北山山荘で今昔を語り合いながら昼食をとります。

今西錦司を知らない人も多くの会員の参加をお願いします。

忘年山行

△仰木峠～梶山△681.1m

日時：2025年12月13日(土)

集合場所・時間：参加者に連絡

行程：出町柳⇒大原上野町辻⇒惟喬親王墓→東海自然歩道→仰木峠・573→小野山・670→梶山(童髪山)△681.1m(二等三角点大原村)→大原三千院

忘年会：三千院門前の茶店にて

地形図：国土地理院2.5万図「大原」

山行の目安：《体力：2、技術：2》

担当者・リーダー：田中昌二郎

歴史と文化の山旅

「再訪。奈良県山添村・神野山
(このやま)の星空を訪ねる」

星空観察は阿智村(長野県)が有名ですが、実は関西にも、素晴らしい天体観測の隠れた聖地があります。神野山です。昼間はハイキングで賑わう神野山も、夜は星空という別世界が広がります。昨年、2024年10月4日に実行するも曇天になり、再挑戦です。

日時：2025年12月20日(土)

集合：大和西大寺駅南口下

(南側改札を出て10m)午後4時

行程：大和西大寺駅(16:00発)-西名阪道-

(17:30着)フォレストパーク神野山(森林科学館駐車場)-星座観察-フォレストパーク神野山(19:00発)-(20:00着)大和西大寺駅

山行の目安：体力 1 技術 1 歩行時間約20分
軽ハイキング装備+星座観測グッズ(星座表・双眼鏡・懐中電灯等)水筒 軽食

※申し込み締め切り2025年12月6日。神野山は交通が不便なのと夜間の狭い山道です。大和西大寺駅から普通自動車の走行になり、定員4名で締め切ります。1500cc以下の普通車で来られる方は問題ありません。詳細は参加者に連絡します
申込・担当：伊原 哲士

【5 支部合同懇親山行 追加情報】
沖島の山に登ろう

2025 年 11 月 9 日(日)～10 日(月)

スケジュール

9 日(日)

集合：近江八幡休暇村 西館（宿泊）
滋賀県近江八幡市沖島町宮ヶ浜
TEL0748-32-3138

参加費：23,000 円

<講演会>

講師：中島政信氏「漁師」

演題：「沖島の歴史と観光」

<懇親会>

10 日(月) 沖島へ

①堀切港から通船で沖島へ

②休暇村棧橋艘からチャーター船で沖島へ

①または②に分乗

◎登山コースと観光コースの企画案があります。

お申し込みの際に選択して下さい。

<沖島登山コース>

登山口→ケンケン山(見景山 178m)

→尾山(蓬莱山 220.2m)→登山口

<観光コース>

日本の琵琶湖に

浮かぶ

沖島の山



日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより 160号」

発行所 日本山岳会京都・滋賀支部

発行者 幣内規男

編集者 のむら綾子

印刷 〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

(株) 北斗書房北斗プリント社 北斗書房

TEL 075-606-8540 FAX075-791-7290

= 次号 161号 予告 =

2025 年 12 月 15 日発行

原稿締切 10 月 31 日 (金)

原稿送付先 編集担当 竹下節子

京都を学ぶ

京都学研究会 編

(代表：金田章裕 京都府立京都学・歴史館館長)



洛南編

新刊

水陸交通の要所としての淀、石清水・八幡宮の信仰の歴史、ハイテク産業の集積、松花堂弁当誕生秘話など…

丹後編

雪舟「天橋立図」にみる中世丹後、舟屋の歴史と観光化、近世漁業と伊根浦の捕鯨など…

宇治編

平等院はなぜ宇治にあるのか、源氏物語に見る宇治、戦場としての宇治、宇治茶の科学など…

伏見編

秀吉の「首都」伏見城下の姿、消えた「巨椋池」の物語、船宿の実態、日本酒ブランドと酒米など…

洛東編

牛若弁慶伝承、足利義政と銀閣（東山山荘）、清水焼と登り窯、京都人の愛する鴨川など…

洛西編

名勝嵐山で知られる洛西。桂川、渡月橋、竹林、蚕の社・木鳥神社、天龍寺に代表される庭園文化など…

南山城編

古来より京都と奈良を結ぶ回廊地域。南山城、木津川、緑茶、恭仁京、飛鳥仏教、流れ橋など…

丹波編

山国京都丹波を再発見！明智光秀の統治、グンゼと蚕糸業、保津川下り、福知山鉄道など…

洛北編

北山のヤママユ、葵が撃つ賀茂祭と將軍家、大原勝林院の秘仏、雑煮と納豆餅の関係など…

A5判・並製・184~242頁 各 2,420円(税込) ❖以下続刊

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 <https://www.nakanishiya.co.jp/>

電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

表示は税込価格です



【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間

月～土 10:00～19:00

※日 10:00～18:00

休日

無休(年末年始および夏期)

1F/一般車コーナー

075-341-7702

2F/スポーツ車コーナー

075-341-7703



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします!

※特価品・SALE品は対象外です。

詳しくはスタッフまで!

取扱い
ブランド

DAV VIVI PAR inell Vittoria HED. DOLAN PINARELLO
LOOK ANCHOR SCOTT FOCUS WILSON COMPOS など